



非常事態下の人々の行動メカニズム

研究代表者：外山 美樹（人間系）

1) 研究期間

短期集中型（2020年5月～10月）

2) 応募時の目的・目標・達成イメージなど

人間の心は、予期せぬ出来事に対して、ある程度「鈍感」にできている。それは、日々の生活の中で生じる予期せぬ変化に、心が過剰に反応して疲弊しないための心のメカニズムとして、正常性バイアスが備わっているからである。正常性バイアス（normalcy bias）とは、「自然災害や火事、大規模事故などに遭遇する人が、周囲の環境が突然大きく変化したとしても『たいしたことにはならないはずだ』、『自分だけは大丈夫なはずだ』と思い込もうとする自己防衛的心理が発生する現象」のことである。

新型コロナウイルス感染症拡大といった未曾有の事態において正常性バイアスが働きすぎると、都合の悪い情報を無視したり、「自分（だけ）は感染しないだろう」「そのうち終息するだろう」などと過小評価したりして、非自粛行動の原因となる。また、正常性バイアスが正常な範囲で働かないことにより、「感染を避ける行動」が暴走し、感染した人たちの否定的なレッテル貼りや差別につながったり、デマや間違った情報が拡散しパニック行動につながったりする。

本プロジェクトでは、新型コロナウイルス感染症の拡大状況下において、われわれが正常性バイアスを示すのか、ならびに正常性バイアスと非自粛行動ならびに感染者への怒りやうつ・ストレスとの関連を検討することを目的とした。新型コロナウイルス感染症においては、その終息が誰においても定かではなく、さらに致死率もそれほど高くないことから、他の自然災害と比べても正常性バイアスが起きやすいことが考えられる。こうした状況下での正常性バイアスの働きを探ることは、学問的意義に加え、社会的意義が大きいものと考えられる。

3) 本プログラムで実施した研究の内容と成果

論文投稿中

4) 研究業績・研究広報

論文投稿中

5) 最新の成果・情報

筑波大学「知」活用プログラムウェブサイト>外山 美樹

https://www.osi.tsukuba.ac.jp/fight_covid19/toyama/

インタビュー記事

https://www.osi.tsukuba.ac.jp/fight_covid19_interview/toyama/